

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103698
法人名	有限会社ラッセル
事業所名	グループホームみなみ
所在地	松山市津吉町1142-1
自己評価作成日	平成28年11月26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>家庭的な雰囲気を大切にしている。利用者にとっての身近な存在であり、安心できるように努力している。</p> <p>職員間の連絡や相談が気軽に行えている。</p> <p>入居者に対して個別の対応ができ、日々相談できるようにし、身体的・精神的な細かな気付きを大切にしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>今年12月に居間を増築し、掃き出し窓から車椅子で庭に出られるようスロープも設置した。飼い犬2匹があり、利用者や職員は、おやつをあげたり、触れ合ったりすることが癒やしになっている。</p> <p>短期目標に「年賀状を1枚書く」ことを挙げて取り組んでいるケースでは、職員と一緒に文字を書く練習を行い、家族に年賀状を出せるよう支援している。</p> <p>日常的に近所を散歩しており、自動販売機に飲み物を買に行くのを楽しみにしている方もいる。年2回、ドライブがてら全員で外出する機会を作っており、今年は、花見と回転寿司の外出に出かけた。普段の会話やテレビからの情報を通じて、利用者の希望を引き出し、初詣や椿まつり、季節の花の鑑賞や外出、買い物等、数名で外出している。重度の方は、日向ぼっこ等して外気に触れる機会を作っている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 		<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームみなみ

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

池川 翔

評価完了日

H 28年 11月 26日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域とのつながりを大切にしながら、人生の先輩として敬意、尊敬をもち、かつ日々よりよいサービス、個人個人その人らしく生活できる事を念頭におき、理念としている。 (外部評価) 「ボケても自分らしく生きる 地域の皆さまとつながり 高齢者を尊敬し 介護の質を高める」と事業所理念を作成しており、玄関や居間に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 組いりしており、回覧板も回ってきている。地域の掃除などには必ず参加し、秋の地方祭には、みこしをいれ、地区の方や、子供たちとのふれあいも大切にしている。 (外部評価) 散歩時には、近所の方や畑仕事をしている方等、出会う方と挨拶を交わしている。近隣の方が犬の散歩がてら寄ってくれたり、時には、野菜のおすそ分けがある。職員は、集会所の掃除や草引きに参加している。地域の高齢者について相談があった際には、地域包括支援センターに相談できることをアドバイスした。秋祭りのお神輿の来る時間が朝早めだったため、少し遅めの時間をお願いして、今年からゆっくり楽しめるようになった。近所の障害者施設とは、夏祭りに参加する等して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 具体的に何をすればよいのか模索中であるが、近所をよく訪ねてくださる方のお話し相手などはしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	(自己評価)	
			(外部評価)	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			(外部評価)	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉の虐待にも気を付けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在1名の方が成年後見制度を利用しており、利用にあたっての流れや、後見人の方との関わりも経験している。また、他利用者に問題が生じている場合にも相談に乗ってもらっている。必要である方には情報提供している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約を結ぶ時点で、説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の不満等あれば、十分に聞き、対応も併せて個人記録に記録している。対応については、職員に対し、日誌及びミーティングにて徹底している。	
			(外部評価) 毎月、家族に利用料金を持参してもらうことにしている。その際を捉えてアルバム等も見てもらいながら、暮らしぶりや心身の状態について報告し、ケアや暮らしについての意見や希望を聞いている。以前は、事業所通信を発行していたが、現在は休止となっている。「外食に行きたい」という本人の希望を家族に伝え、受診時、ご家族と一緒に食事を楽しんで帰ることにつながったケースがある。	家族の高齢化等の事情もあるだろうが、ケアパートナーでもある家族と一緒に利用者の暮らしを支えていけるような取り組みの工夫が期待される。事業所からの情報発信や活動等についても工夫してみてもどうか。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			管理者・ホーム長に気軽に話せるようにしており、ミーティング等でも意見・提案を聞き、一緒に考え、改善できることは改善。出来ないことは最善に出来るようにしている。	
			(外部評価)	
			毎月のスタッフ会で、カンファレンスも行っている。職員は、利用者の状態変化に応じて、介護用品の提案等も行っており、法人代表者が即決することもある。欠席者は、ホーム日誌で会議内容を確認している。業務に関する内容はホーム長に、ケアに関する内容は法人代表者や管理者に相談することになっており、窓口が明確になっていることが職員のストレス軽減につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			個々にあった環境や条件の設備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修の資料集め等積極的に行い、積極的に職員に勧めている。またそれに応じた調整も柔軟に行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			研修に参加し、同業者との交流でサービスの質を向上させていけるよう取り組んでいる。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			本人と話す時間をもち、出来るだけ多くの事を聞き、何が不安で何を必要としているかを理解するようにしている。本人が話したいときに待つではなく、まず耳を傾ける努力を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族の苦労話や、サービスに対する不安や、意見にその都度対応している。実際家族が気軽に話せる関係作りにも努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) お話を聞いた上で本人や、家族の思い等を確認し、支援の提案をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の不安や楽しみ等を知ること努め、共に支えあうように努めている。昔より培ってきた生活に対する知恵など伝授してもらったり、反対に女性なら服選びをしたりなど。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の面会の際には、出来事やその時の利用者の様子や現在の身体・精神状況など日ごろの状態を報告し、共に介護について話し合っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 本人が連絡を希望している場合は希望に沿うようにしている。馴染みの場所を思い出せない人も多くなっているのが実情である。 (外部評価) 事業所に住民票のある方については、ニュース等を見ること等を支援して、選挙に行けるようサポートをしている。家族に電話したい方がいれば、本人ができない部分をサポートして支援している。	利用者の馴染みの人や場所についての情報収集に取り組んだり、又、新たに人や場とのつながりをつくるような支援等にも工夫してみてもどうか。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 昔遊んだ事や、歌などを話題にしたりすることで全体の会話へとつなげ、お互いに懐かしんだりして交流を持つことが出来るように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院後体調が思わしくなく、退去となった方にも気軽に相談してもらえるような関係作りに努めている。相談には、誠意を持ってお答え対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者のペースにあわせ、一人ひとりが自分で決めたり、選んでもらう場面を作っている。選ぶのを待つ等の配慮を行っている。また個人個人の意見も大切にしている。困難な場合もその人に何が必要であるか、検討した上で行うようにしている。	
			(外部評価) 入居時、「暮らしの情報」シートを家族に記入してもらい、その後、職員が追記して、年1回見直しを行っている。又、日常生活動作の状況に加え、生活の場面毎にアセスメントを行い、職員間で情報共有して意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 馴染みの家具・馴染みのもの等置き、家庭の雰囲気作りに努めている。家族より情報を聞く等している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日バイタルチェックを行い、一人ひとりの健康状態を把握し、声かけや、会話、普段の様子を観察することにより、身体・心の状態を知るよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>家族・医療関係者・職員と相談し、意見等も検討し、毎日職員同士で話し合いも行い、利用者に一番良い、一番必要としていることを介護計画として作成している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>家族と疎遠になっている方については、カンファレンス時を捉えて参加を依頼しており、本人、家族の意向を聞き取り、介護計画に反映している。短期目標に「年賀状を1枚書く」ことを挙げて取り組んでいるケースでは、職員と一緒に文字を書く練習を行い、家族に年賀状を出せるよう支援している。モニタリングは毎日行い、毎月評価して3ヶ月毎の介護計画の見直しにつなげている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>一ヶ月毎に介護計画の評価を行っている。経過記録を出来るだけ具体的に個人個人で記入してもらい、一ヶ月の経過記録より評価している。情報の共有、介護計画にも生かしている。</p>	
			(自己評価)	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>通院・外出等個人の希望に沿って出来るだけ職員で対応している。家族の希望があれば宿泊も出来る。出来るだけ個別にも対応できるよう努めている。</p>	
			(自己評価)	
			(自己評価)	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>本人の意向を表現できる方がいない為積極的には、行えていない。</p>	
			(自己評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) かかりつけ医については、本人・家族の意向を聞き、以前からかかっているところを希望される方に関しては、従来通り同じ所を受診してもらっている。現在は、9名中8名が本人・家族の意向により、かかりつけ医の往診を受けている。また、急変時にも医師に相談できるように連携をとっている。</p> <p>(外部評価) ほとんどの利用者が、協力医を主治医としており、月2回の往診で診てもらっている。訪問看護師は、往診以外の週にも毎週来て利用者の健康管理を行っており、職員は必要に応じて相談等をしている。本人の希望でリハビリに通う場合は、職員が同行している。利用者によっては、薬剤に関して職員の気付いたことを相談し、主治医と連携しながら変更や減薬に取り組んでいる。体重が増加傾向にある方については、医師の指導のもと、食事量を調整しながら支援している。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 看護職員がおり、病状・対処方法等、みんなが相談できるようにしている。また、往診の医師・提携病院とすぐに連絡が取り合えるようにしている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 利用者が入院した際は家族との連絡、病院に状態を定期的に聞きに行くなどして退院時期も早期に相談し、対処出来るようにしている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 病状悪化や、急変等考えられる方に対しては、医者・家族と相談した上で今後の方針・意向を確認し、職員全体にも伝えている。</p> <p>(外部評価) 入居時、「医療行為はできないが、希望があれば看取りを支援する」ことを説明している。重度化した場合の希望としては、家族、本人ともに全員が「最期までここで」と希望しており、状態変化時には、再度希望を聞き支援している。開設以来、看取りの事例はない。緊急時には法人代表者がすぐに駆けつける体制があり、職員の不安軽減につながっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 不定期ではあるが消防署の協力を得て応急処置や、救急救命等学んでいる。現在1年に1回。ミーティング時にも再確認する機会を持つようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 食器棚等地震対策はしている。消防署の方の定期的な点検も受けている。地域の方の協力としては、誰が駆けつけるとい体制と言うのは困難である。 (外部評価) 年2回、地震後の火災について昼・夜間を想定して、避難訓練を行っている。訓練後の話し合いでは「利用者の状態によって誘導に時間がかかる」という意見が出て、「避難通路に物を置かない」「ベッドを一番下まで下げておく」等についても申し合わせた。備蓄を数日分、災害グッズも備えている。さらに今後は、町内会の防災の取り組みについて情報を得て参加する機会を設けてはどうだろうか。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩として尊敬の心を常に持ち会話・対応等している。自室やカーテン等利用し、プライバシーを保護している。また、言葉にも気を遣い、他人の前で言われて嫌なことは言わず、違うことで誘導し、ケアしたりするようにしている。 (外部評価) 排泄用品を盗られたのではないかと心配する方には、職員と一緒に排泄用品の在庫確認を行い、又、本人がいつでも確認できるように一覧表を付けて管理している。腕時計で食事やおやつ時間を確認する方には、本人のペースに合わせて見守りしながら支援している。毎朝の更衣や一日2回のティータイム時には、選んだり決めたりする場面をつくっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何かするときには必ず説明し、納得していただいている。嫌と言うことには強制しない。強制介入の必要がある場合には、時間をおいて接したり、対応方法を変更したり、柔軟に対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 散歩・ドライブ・日向ぼっこ・自室のはたきかけ・床拭き・料理の下ごしらえ・食器拭き・洗濯物干し・たたみ・テレビ・音楽・ゲーム等一人ひとりに合った余暇時間を過ごし、みんなが同じ時間で動くのではなく、一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容院などが無いため、近所の美容院に頼み、カットに来ていただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) スーパーの広告や、料理の雑誌を見て献立を話してみたり、食材をみて何にするか、一緒に話しながらしたり、味見してもらって意見をいただいたり、調理法を伝授していただいたりしている。食材の下ごしらえをしたり、食器拭きをしてもらったり、参加していただいている。	
			(外部評価) 食事は、普段の会話から利用者の好みを把握し、その日出勤の職員が、献立を立てて手作りしている。職員の家族から野菜の差し入れがある等、旬の食材を豊富に使用した献立になっている。朝食は、「水分補給を兼ねて」、毎日おかゆと味噌汁を採り入れている。青魚のアレルギーのある方は、お好きな卵料理に代替している。今夏は職員の提案で、そうめん流しを楽しんだ。誕生日には、希望を聞き、皆でピザを楽しむこともある。調査訪問日の昼食時、職員は、利用者の興味のある話題で楽しく会話しながら食事していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人個人にあった食事の形態で食事していただいている。水分も定期的に進めている。また食事制限のある方には、体重管理等医者と相談しながら支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の歯磨きの声かけを行っている。また、必要な方には、洗面所まで誘導し、見守り・介助を行っている。全介助の方には、スワブ・ガーゼ等活用し、口腔ケアを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>トイレ誘導が出来る方は、食事前後・水分補給前後を目安に行っている。おむつもしたらしたままでなく、残存機能を生かせるようにスタッフ同士で話し合い、検討し、実行するようにしている。排泄チェック表にて確認するようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>排泄チェック表をもとに、早めに声かけしトイレ誘導することで、排泄用品の使用が少なくて済むよう取り組んでいる。「食事中にソワソワするとトイレのサイン」という方もおり、職員間で情報共有して支援している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>ヨーグルトや、牛乳を加えた飲み物や、水分補給などその方にあった解消法を常に検討・実践している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>各個人のその日の体調を観察しながら、声掛けて入浴して頂いている。どうしても拒否される方にはタイミングを見て声掛けを考えたり、時間をずらしたりして様子を見ている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>基本的に毎日入浴できるように支援しているが、体調や希望で一日おきの方もいる。車椅子の方は、リフトを使用して湯船につかれるよう支援している。脱衣所の壁面には、ぬる目の湯、長風呂はダメ等、個々の好みや健康上の注意点を記入した用紙を貼っており、職員で共有している。入浴を嫌がる方には、タイミングをみながら声かけを工夫して支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>散歩や入浴など行ったり、犬と触れ合ったり、リビングで過ごす時間を多くしたりと昼夜逆転しないように努めている。状況に応じて日中休息が取れるようにしている。どうしても眠れない方には、医者や相談し、眠剤を服用されている方もいる。布団干しを行い気持ちよく寝ていただけるようにもしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) スタッフ全員が薬の目的など理解できていない時もあるため、一覧表を表示し、確認するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 職員と一緒に買い物に行き、荷物もちをしたり、たくさんの商品に驚き、感動されたり、掃除などして自分の仕事の達成感を持っていただくようにしている。季節の花を楽しみ、生けたり、大好きな犬と触れ合ったり、個人個人にあった役割・余暇時間が過ごせるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 積極的に希望を言ってくる方が少なく、職員からの働きかけにより、買い物に行ったり、散歩したりしている。動くのが億劫なかたに対しては、庭で日向ぼっこして、お茶を飲んだり、おやつを食べたりと外気に触れる機会を作っている。 (外部評価) 日常的に近所を散歩しており、自動販売機に飲み物を買うに行くのを楽しみにしている方もいる。年2回、ドライブがてら全員で外出する機会を作っており、今年は、花見と回転寿司の外出に出かけた。普段の会話やテレビからの情報を通じて、利用者の希望を引き出し、初詣や椿まつり、季節の花の鑑賞や外出、買い物等、数名で外出している。重度の方は、日向ぼっこ等して外気に触れる機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人の能力に合わせて支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時には電話をかけていただいたりしている。また、その際に困難な方に対しては、職員が手助けするようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ご家族と撮った写真を飾ったり、好きな人形やぬいぐるみを飾ったりしている。 また落ち着けるように本人に合わせた家具を用意したりしている。</p> <p>(外部評価) 古民家改修型の事業所で、看板を掲げず、玄関に表札を下げています。今年12月に居間を増築し、掃き出し窓から車椅子で庭に出られるようスロープも設置した。玄関の下駄箱前には、木製のベンチを設置して、座って靴を履けるようにしている。居間の窓ガラスには、季節柄、クリスマスツリーや雪だるまのステッカーで飾り付けをしていた。午前と午後には体操やお茶の時間を設けている。職員を相手に将棋を指して楽しむ方がいる。飼い犬2匹がおり、利用者や職員は、おやつをあげたり、触れ合ったりすることが癒やしになっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビングでたたみのイス設置。また、リビングで話したり、楽しんだり、自室で話の合うもので過ごしたりしている。人と関わる事が苦手な方には職員が必要に応じて働きかけしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 音楽が好きな方には、CDラジカセなどで音楽を楽しんでいただいたり、花好きな方には、花をかざったり、ご家族と撮った写真を飾ったりしている。入居前からの使い慣れた家具等を使っておられる。</p> <p>(外部評価) 自室に位牌を持ち込み毎日水を供える方、お気に入りの人形をベッドに寝かせ一緒に寝る方、プロ野球のテレビ中継を見て楽しむ方がいる。自室に本棚を置き文庫本を選んで読んだり、ルービックキューブをして楽しむ方がいる。家族が大きく引き伸ばした孫の七五三の写真を飾っている居室もあった。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 個人に合わせた環境づくりに努めている。今まで行っていなかったことも個人の生活歴や好みに合わせた方法を検討するなどの取り組みを行っている。</p>	